

石部宿について～「ちょっと一息」にちょうどいいまち～

湖南市の歴史や文化財といえば何を思い浮かべるか？有名どころのひとつに石部宿があるのではないのでしょうか。今回は第1回目ということで、「石部宿とは？」「宿場とは？」といった基礎的なところからご紹介していきます。

基本情報

時は江戸時代。天下統一を果たし江戸幕府を開いた徳川家康は、国内の交通の便をよくしようと街道整備事業を行います。江戸と京都を結ぶ**東海道**ルートには**53の宿場（東海道五十三次ⁱ）**が置かれ、江戸から数えて51番目が現湖南市に位置する**石部宿**です。ちなみに、滋賀県内には東海道の宿場町は5つあります（東から土山、水口、石部、草津、大津）。

石部が「宿場町」として成立したのは「^{ごてんまのきだめ}御伝馬之定」が制定された**慶長6年（1601）**とされています。今でも旧東海道として道が残っていますが、400年以上前には交通の要といえるメイン道路だったわけです。



現在の旧東海道

宿場町とは

「御伝馬之定」で決められた、交通ルートの要所要所に置かれるチェックポイントとなる場所です。大きく分けて2つの役割があります。

●休息、宿泊の地

当時は車も電車もなく、旅というと**徒歩か馬**で**数日から数週間**かけるものであり、**休息や宿泊ができる場所は必須**です。宿場町には民家だけでなく、店や宿屋が建ち並び、旅人の憩いの場として栄えました。

●荷物の継ぎ送り

荷物を運ぶ人や馬も歩き続けると疲れてしまうため、宿場で交代するリレー方式をとって効率化を図っていました。そのため交代用の馬や人足^{にんそく}を常にストックしておくことも宿場の重要な業務です。石部宿では馬80頭、人足70人ⁱⁱを常備していました。仕事用の馬の管理も宿場役

人の業務であり、現柑子袋のあたりには牧場があったようです。80 頭もの馬をお世話するのは大変そうですね。

今風にいえば食事休憩や車の給油ができる、高速道路のサービスエリアに近いでしょうか。もちろん一般の旅人にもありがたいものですが、幕府が出す書状など公的な荷物のやりとりも多いため、こうした交通環境の整備は政治的にもたいへん重要なことでした。

京立ち石部泊まり

最後に旅人目線のお話をもうひとつ。江戸時代の交通事情から考えると、実は石部は立地条件がいい場所にあります。

というのも、石部は京都から約 36 km の位置にあり、これは人間が 1 日かけて歩ける距離とほぼ同じです。つまり、朝一番に京都を出発した場合、石部は 1 泊目にちょうどいい場所となるわけです。このことから、「京立ち石部泊まり」という言葉が生まれ、石部宿の宿屋は宿泊客でにぎわっていました。

ちなみに、京都から江戸までだと約 492 km、徒歩で 2 週間ほどかかります。往復を考えれば移動時間だけで約 1 か月！今では新幹線でひとつとびですが、昔は相当大変な旅だったのですね。

【参考文献】

- ・石部町「新修石部町史」1988
- ・八杉淳「近江の宿場町」2009

-
- i 元和 5 年（1619）京都の伏見・淀、大阪の枚方・守口が新たに設置され、これらを加える場合は東海道五十七次と称する
 - ii 「御伝馬之定」では各宿場に伝馬を 36 頭以上置くよう定められていた

東海道 人の往来を描いた浮世絵
(三代広重 東海名所 改正道中記)

